

令和3年度 第1回常任委員会 第3号議案 EPSON スマートチャージ導入に関する議案書

提案日 令和3年5月15日

提案者

会長 戸田高弘

提案内容

インク代や保守費用を含むプリンターリース「EPSON スマートチャージ(5年契約)」を導入したい。

提案理由・必要性

現在 PTA 室には印刷機(RICHO)とコピー機があるが、印刷機の方は2年以上前から不調で修理を繰り返している。耐用年数的にもそろそろ買い替えの時期であるが、別議案のPDF 配信サービスを導入するとすれば、紙の書類を大量に印刷する機会は確実に減少する。そのようなタイミングで、50万円程度的高速印刷機の新品購入、もしくは20万以上かけての幾度目かのオーバーホールを行う(行なったとしてもいつまで持つか不明)ことは、支払うコストに見合う活用ができるか微妙なところである。ちなみに、RICHO からのリース案は、保守対応やインク代なども含めて計算したところ、購入と大差ない結果となり、採用するに足りないと判断した。

そこで他の方向性をいろいろと検討したところ、EPSON スマートチャージというリースプランに白羽の矢が立った。本体代、インク代、保守費用すべて込みで月額 5500 円から導入できる。コスト面でも多少の削減になる上、毎年度役員がほぼ全員交代する PTA において、保守契約込みのリースサービスは親和性が高い。PTA 役員会に毎年必ず機械に強い人材がいるわけでもないことを考えると、運用がシンプルになるのは単純なコスト削減以上の意義があると考ええる。

現状の課題・問題

聞いたところによれば、PTA 室の印刷機の不調は2年以上前から問題になっているそうである。現状、なんらかの工夫なしには使い物にならない状態であるが、仮に今年度、新品を購入したとしても、数年後には現在と同じ状況になることは容易に想像がつく。そもそも、毎回万単位の費用がかかる保守管理や、数十万する本体買い替えの判断を、その道のプロでもない上に毎年度入れ替わる役員会が、年度ごとに行っていくのはなかなか荷が重い。年度によらず保守管理を外部に一任できる環境、誰が役員になろうと安定的な運用が可能な環境を構築すべきであるが、RICHO の年間保守契約費用は税別 80,000 円、月額にして 7,333 円とのことで、EPSON スマートチャージの月額費用を上回る。保守契約の点だけでも、コスト面のメリットが十分あると言える。

EPSON スマートチャージは保守費用に加え、本体代、インク代も込みなので、PTA が用意するのは電源と印刷用紙のみ。在庫管理も楽になり、困った時はサービスセンターに連絡すれば無料で対応してもらえる、というのは非常に心強い。印刷作業に関する役員引き継ぎの内容が極めてシンプルになることも含め、PTA 活動のストレスを大幅に軽減できると思われる。それは役員参加へのハードルを下げることに繋がる。

他の案として、家庭向けの印刷速度が早いプリンターを購入して、保守は考えずに壊れるたびに買い替えていく、という案もあるが、この場合インク代は別途になる。メーカー純正インクは非常に高価なので、インク代を抑えるためには互換品

の詰め替え式などを選択する必要があるが、そうするとインクの詰め替え手順を引き継ぐなどの手間が増え、また、故障して本体を買い替えた場合、その度に引き継ぐ内容が変わるなど、年度をまたいでの運用が安定しない懸念が生じる。サブライ管理面でも有用なリースプランが存在する以上、無理に複雑な運用方式を選択する意義は薄い。

提案が採用された場合のメリット

- ・本体、インク、保守がすべて込みなので、PTA 側が用意するのは紙のみというシンプル運用
- ・保守契約込みなので、困った時は無料で対応してもらえる
- ・年度ごとの役員間で引き継ぐ内容が減る。印刷機本体を買い換える時期や高額な購入費用の心配もなくなる
- ・現状の本体代、インク代、マスター代、メンテ費用、積み立て費用を合算したものよりは若干費用が削減できる

積立金の使い道について

令和3年度5月時点において積み立て済みの印刷機購入のための資金は、特に必要な使途が見つからない限りは、そのまま取り置くこととする。毎年度の役員会にて、印刷状況や PTA 全体の収支を見ながら、使途を検討されたし。

提案採決の希望時期とその理由

5/17の第1回常任委員会にて。

これからどれくらい使うのかも曖昧な高速印刷機を引退させて、電子配信も含めての新しい文書配信スタイルの運用方法を導入するなら今このときがベストと考える。